

平成18年産麦類（用途別） れんげ、イタリアンライグラスの作付面積及び4麦の収穫量 （埼玉県）

～平成18年産4麦作付面積は、前年産に比べて2%減少～

【調査結果の概要】

1 作付面積

埼玉県における平成18年産4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及び裸麦）の子実用作付面積は7,530haで、前年産に比べて120ha（2%）減少した。

2 収穫量

4麦の収穫量は2万9,200tで、前年産並みだった。

表1 4麦の子実用作付面積及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10a当たり 平均収量 対 比	前年産との比較				
					作付面積		10 a 当たり 収 量	収 穫 量	
					対 差	対 比	対 比	対 差	対 比
	ha	kg	t	%	ha	%	%	t	%
4 麦 計	7 530	-	29 200	-	120	98	-	100	100
小 麦	6 530	384	25 100	100	80	99	101	0	100
二 条 大 麦	722	398	2 870	104	9	101	104	140	105
六 条 大 麦	230	448	1 030	108	69	77	98	330	76
裸 麦	47	397	188	103	12	134	112	63	150

注：（参考）10a当たり平均収量対比とは10a当たり平均収量（過去7か年の実績値のうち、最高、最低を除いた5か年の平均値）と当年産の10a当たり収量との対比である。

本資料の数値は概数であり、品質の状況等によっては、収穫量等に変更が生じることがあります。

本統計結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。
【http://www.kanto.maff.go.jp/toukei/2006data/0906mugimenseki_s/mugimenseki_s.xls】
本統計の目的などは、【調査の仕様】P5に掲載しています。

【解 説】

1 4麦の作付面積

子実用作付面積は7,530haで、前年産に比べて120ha（2%）減少した。

田作は6,070haで、前年産に比べて50ha（1%）、畑作は1,460haで、前年産に比べて70ha（5%）それぞれ減少した。

（1）小麦

子実用作付面積は6,530haで、前年産に比べて80ha（1%）減少した。

これは、一部地域で六条大麦からの麦種転換により増加したものの、水稲作との作業競合や生産者の労力事情等による規模縮小、作付中止があったためである。

（2）二条大麦

子実用作付面積は722haで、前年産に比べて9ha（1%）増加した。

これは、一部地域で小麦からの麦種転換があったためである。

（3）六条大麦

子実用作付面積は230haで、前年産に比べて69ha（23%）減少した。

これは、生産者の労力事情等による規模縮小、作付中止があったことに加え、麦茶加工用契約の減少等から小麦等への麦種転換があったためである。

（4）裸麦

子実用作付面積は47haで、前年産に比べて12ha（34%）増加した。

表2 麦類用途別、レンゲ及びイタリアンライグラスの田畑別作付面積

区 分	計			田			畑		
	作付面積	前年比較 対 差	対 比	作付面積	前年比較 対 差	対 比	作付面積	前年比較 対 差	対 比
4 麦 計	7 590	130	98	6 080	50	99	1 520	80	95
子実用	7 530	120	98	6 070	50	99	1 460	70	95
小 麦	6 580	80	99	5 140	70	99	1 430	20	99
子実用	6 530	80	99	5 140	60	99	1 390	10	99
二 条 大 麦	738	9	101	688	10	101	50	1	98
子実用	722	9	101	683	10	101	39	1	98
六 条 大 麦	233	69	77	199	12	94	34	57	37
子実用	230	69	77	199	12	94	31	57	35
裸 麦	47	12	134	47	13	138	0	1	0
子実用	47	12	134	47	13	138	0	1	0
え ん 麦	200	6	97	17	0	100	183	6	97
飼料用	129	2	98	13	0	100	116	2	98
ら い 麦	16	0	100	-	-	-	16	0	100
飼料用	3	0	100	-	-	-	3	0	100
れ ん げ	168	4	98	168	4	98	-	-	-
イタリアンライグラス	586	9	99	103	4	96	483	5	99

2 4 麦の収穫量

4 麦の収穫量は 2 万9,200 t で、前年産並みであった。

(1) 小麦

収穫量は 2 万5,100t で、前年産並みであった。

これは、作付面積が前年産に比べて80ha (1 %) 減少したものの、10 a 当たり収量が前年産を 4 kg (1 %) 上回ったためである。

10a当たり収量が前年産を上回ったのは、登熟期の日照が少なめであったものの、登熟に適した気温で推移したことにより、登熟がおおむね順調であったことによる。

(2) 二条大麦

収穫量は2,870t で、前年産に比べて140t (5 %) 増加した。

これは、作付面積が前年産に比べ 9 ha (1 %) 増加したことに加えて、10 a 当たり収量が前年産を 15kg (4 %) 上回ったためである。

10a当たり収量が前年産を上回ったのは、登熟期の日照が少なめであったものの、登熟に適した気温で推移したことにより、登熟がおおむね順調であったことによる。

(3) 六条大麦

収穫量は1,030t で、前年産に比べて330t (24%) 減少した。

これは、作付面積が前年産に比べて69ha (23%) 減少したことに加えて、10 a 当たり収量が前年産を 7 kg (2 %) 下回ったためである。

10a当たり収量が前年産を下回ったのは、収穫前の強風雨から、倒伏等の気象被害が多発したことによる。

(4) 裸 麦

収穫量は188t で、前年産に比べて63t (50%) 増加した。

これは、作付面積が前年産に比べて12ha (34%) 増加したことに加えて、10 a 当たり収量が 前年産を 41kg (12%) 上回ったためである。

10a当たり収量が前年産を上回ったのは、登熟期の日照が少なめであったものの、登熟に適した気温で推移したことにより、登熟が順調であったことによる。

3 えん麦及びらい麦の作付面積

(1) えん麦

作付面積は200haで、前年産に比べて 6 ha (3 %) 減少した。

(2) らい麦

作付面積は16haで、前年産並みであった。

4 れんげ及びイタリアンライグラスの作付面積

(1) れんげ

作付面積は168haで、前年産に比べて 4 ha (2 %) 減少した。

(2) イタリアンライグラス

作付面積は586haで、前年産に比べて 9 ha (1 %) 減少した。

表3 麦類別の被害面積及び被害量

区分	総数		気象被害		病害		虫害	
	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
	ha	t	ha	t	ha	t	ha	t
小麦	9 630	5 920	8 000	5 530	966	252	380	83
二条大麦	742	269	530	217	98	31	42	4

注：被害面積は、被害種類別の延べ面積である。

【関連するデータ、情報】

累年統計表

1 小麦及び二条大麦（子実用）

年産	小麦（埼玉県）			二条大麦（埼玉県）		
	作付面積	10a当たり収量	収穫量	作付面積	10a当たり収量	収穫量
	ha	kg	t	ha	kg	t
平成9年	7 620	416	31 700	1 070	393	4 210
10年	7 290	325	23 700	980	291	2 850
11年	6 900	342	23 600	880	352	3 100
12年	6 680	434	29 000	837	424	3 550
13年	6 730	360	24 200	759	368	2 790
14年	6 760	428	28 900	683	405	2 770
15年	6 890	413	28 500	652	405	2 640
16年	6 800	304	20 700	707	300	2 120
17年	6 610	380	25 100	713	383	2 730
18年（概数）	6 530	384	25 100	722	398	2 870

資料：農林水産省統計部『作物統計』による。

2 六条大麦及び裸麦（子実用）

年産	六条大麦（埼玉県）			裸麦（埼玉県）		
	作付面積	10a当たり収量	収穫量	作付面積	10a当たり収量	収穫量
	ha	kg	t	ha	kg	t
平成9年	329	461	1 520	0	306	0
10年	319	291	928	0	206	0
11年	326	383	1 250	1	452	4
12年	317	458	1 450	20	505	101
13年	347	406	1 410	27	370	100
14年	396	460	1 820	86	347	298
15年	440	366	1 610	51	394	201
16年	396	308	1 220	43	270	116
17年	299	455	1 360	35	356	125
18年（概数）	230	448	1 030	47	397	188

資料：農林水産省統計部『作物統計』による。

【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、麦類、れんげ及びイタリアンライグラスの生産に関する実態を明らかにし、「食料・農業・農村基本計画」において策定された食料自給率や生産努力目標の達成に向けた各種行政施策の推進、農業災害補償法に基づく共済事業の適正な運営のための資料を整備することを目的としている。

2 調査の対象

作付面積調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行い、収穫量、被害面積及び被害量調査は、各都道府県を対象に調査を行っている。

ただし、被害面積及び被害量に係る調査については、麦種別に前年産の作付面積が500ha以上の都道府県を対象としており、埼玉県においては小麦及び二条大麦である。

3 調査客体数

(1) 作付面積調査

ア 面接調査：80団体等

イ 巡回・見積り：71市町村

(2) 収穫量、被害面積及び被害量

ア 面接調査：76団体

イ 基準筆調査：小麦：15筆、二条大麦：4筆、六条大麦：3筆、裸麦：1筆

ウ 巡回・見積り：71市町村

4 調査期日

(1) 作付面積

都府県：4月1日

(2) 収穫量、被害面積及び被害量

収穫期（作柄及び被害状況の判断に適した時期を含む。）

5 調査方法

(1) 作付面積

センター職員による関係団体に対する面接調査、巡回・見積りによる。

(2) 収穫量、被害面積及び被害量

センター職員による関係団体に対する面接調査、作況基準筆及び被害調査筆（設置した場合のみ）の調査結果に基づく巡回・見積りによる。

6 目標（実績）精度

本調査においては、目標精度は設定していない。

7 用語の解説

用途別作付面積とは、子実用、飼料用、肥料用及び敷きわら用など、収穫された作物の用途に応じて分類した作物の利用面積をいう。

子実用作付面積とは、主に食用に供すること（子実生産）を目的に作付けされた作物の利用面積をいう。

飼料用作付面積とは、青刈り用（子実の生産以前に刈り取られるもの）のうち、家畜に供与することを目的に作付けされた作物の利用面積をいう。

10a当たり平均収量対比とは、10a当たり平均収量（過去7か年の実績値のうち、最高、最低を除いた5か年の平均値）と当年産の10a当たり収量との対比をいう。

被害面積とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれうるであろうと見込まれる収量から減収した面積をいう。

被害量とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれうるであろうと見込まれる収量より減収した量をいう。

気象被害とは、気象的要因によって発生した被害、言い換えれば、異常な気象状態が直接の原因となって発生した被害をいう。

病害とは、真菌、細菌、粘菌及びウィルス類等の病原菌（体）が、作物体に寄生することによって生じる被害をいう。

虫害とは、昆虫、ダニ等の節足動物、線虫等が作物体を食害し、又は寄生、侵入することによって生ずる被害をいう。

9 統計表の見方等

(1) 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原数		5けた (万)	4けた (1 000)	3けた以下 (100)
四捨五入するけた数(下から)		2けた	1けた	四捨五入しない
例	四捨五入する前(原数)	12 345	1 234	123
	四捨五入した後(統計数値)	12 300	1 230	123

(2) 表中の記号は次のとおりである。

「**-**」は減少したもの

「**0**」は単位に満たないもの(例: 0.4ha 0 ha)

「**-**」は事実のないもの

10 その他

この資料の数値は概数であり、確定値は追って刊行する『埼玉農林水産統計年報(平成17年～平成18年)』に掲載する。

この統計結果は、関東農政局ホームページ中の統計データに掲載しています。
 アドレス【<http://www.kanto.maff.go.jp/toukei/2006data/2006data.html>】
 又は、関東農政局トップページ 統計データ 平成18年度

問い合わせ先

本統計結果について

連絡先：関東農政局 統計部 生産流通消費統計課

電話：(代表) 048 (600) 0600 内線3631

(直通) 048 (740) 0588

担当者：風神、飯島

農林水産統計全般について

連絡先：関東農政局 統計部 統計企画課 企画第2係

電話：(代表) 048 (600) 0600 内線3613

(直通) 048 (740) 0575